

食物起源神話：『古事記』によるとオオゲツヒメの鼻、口、尻から食材が出たと。それを見ていた者が「食物を汚した」とオオゲツヒメを殺してしまいます。オオゲツヒメの死体から次々と食物の種が生まれます。目から稲、耳から粟、鼻から小豆、陰部から麦、尻から大豆…こうして食物が誕生しました。

生まれる場所が面白い話はいろいろあります。

ヒンドゥー教三大神はブラフマー神、ヴィシュヌ神、シヴァ神ですが、それぞれ宇宙の創造・維持・破壊と再生を司り、創造神ブラフマーはヴィシュヌ神のヘソから生えた蓮の花から生まれました。となれば実質の想像主は歩ヴィシュヌ神なのでしょうが…。また、釈尊（シッダールタ）は母（マーヤー妃）の右脇の下から生まれました。

食物起源に戻ってインド神話を見てみましょう。ヒンドゥーの食物神は女神アンナプールナでシヴァ神の妃パールヴァティの女神の別名でもあります。そう呼ばれる別名であって、実際のアンナプールナがいます。アンナとは「食物」の意味でプールナは「完全な。完成の。満たされた」の意味です。余談ですがアーサナの名前にもありますね～。

さて、ヒーマーラヤ（氷の家）に住むシヴァ神とパールヴァティ妃。断食中のシヴァは言いました「目に見えるすべてのものは幻影なのだ。この食べ物も幻影だ」。食事を作ったパールヴァティは怒って引きこもってしまいます。それからが大変。世界中が食糧危機に陥りました。そして女神アンナプールナは人々の腹を満たす食べものをつくりました。

睦月から如月へ。まだまだ寒く重ねねですが、着物もまた食べ物からできていますね。満たし春へ赴きます。(5)

## キャ・カ・ラ・バ・ア 地水火風空の世界

右はご周知の通り卒塔婆(そとば)で、サンスクリット(梵語)では स्तूप, stūpa(ストゥーパ)。板塔婆と角塔婆とあります。墓石の後ろにあるのは板塔婆。卒塔婆の切込みですが、これは適当でも偶然でも、人それぞれではないのです(笑)これは、表紙の写真の五輪塔の形をとっています。下から地・ア(方形)、水・バ(円形)、火・ラ(三角形)、風・カ(半月形)、空・キャ(宝珠形)。

1月の定例講座【いまに生きるインドの叡智】(第4金/月)ではチャクラ(身体内にあるエネルギーセンターで円。輪。ろくろ。)についての学習でした。チャクラ図の中のヤントラ(瞑想や儀式、お札等に用いる特殊図形。タントラではマンダラと呼び、宇宙観を表す)をちょうど学習したのですが、第一チャクラから順に①正方形②三日月を横にした半月形③下向き三角④ダビデ星六角形⑤円⑥長円⑦満月。…図は類似していますね。

塔婆に書かれているのはサンスクリット(梵語)から派生したシッダン(悉曇文字)で「成就吉祥」の意味。仏の梵字で、種子文字なのです。例えばキャは法の文字で「虚空」の意味。その一字を観想・瞑想します。一文字の持つ語句解釈が深く広く…梵字の習得は実に困難ともおもしろい…とも。密教ですね～。一般民衆ではありがたい仏様の文字としてのみの伝承ですが、密教上では、三密行(身・口・意)以って梵字真言の廻転で行者はそのまま入我我入で即身成仏と…。ヨーガではマントラ・ヨーガという流派にあたります。さて、少しずつこの面白いシッダンも紹介をしていきましょうか🙏 (6)

カ  
ラ  
バ  
ア